

京畿道京成府倭城台町鎮座
京成神社

一 祭神
天照大神
國魂大神
大己貴命
少彦名命
田積

富社ノ創建ハ勅諭ガ末々異邦タリシ明治二十五年ノ頃京成居留民間ニ皇祖天照大神奉齋ノ壽起リ一時遙拜所ヲ設ケテ奉拜シタリシガ留エテ明治二十年ニ至リ居留民會ニ於テ神社建立ヲ決議シ翌三十一年五月伊勢神宮へ民

代表者ヲ派シ特別大施立ニ御神寶ノ授與ヲ受ケテ歸郷シ一時領事館内ニ奉安シ同時ニ伊勢神宮御用材ノ拂下ヲ受ケ同神宮棟梁フシテ神宮正殿ノ百分ノ十ニ型レル正式神殿ヲ造營シ境内ヲ日本居留民公園倭城台南山ノ勝地ニトシ同年十二月三日神殿ノ落成ヲ俟テ御鎮座祭ヲ行ヒ初メ南山大神宮ト稱シ大正十二年民會ノ決議ヲ以テ社號ヲ京成神社ト改稱シタリ次テ大正十五年三月氏子會ノ決議ニ基キ境内ノ大擴張並ニ社殿ヲ大造營ヲ企圖シ同時ニ之ヲ倭トシ國土開發ノ始祖國魂大神一座大己貴命少彦名命一座ヲ増祀シ奉ラントノ一決シ次テ寄附金ノ募集ニ著手シタルニ二十五萬圓ノ寄附金申込ヲ受ケルハ盛況ヲ見ケルニ依リ昭和三年五月起正式ヲ行ヒ神殿、幣殿、拜殿、神饌所、手水舎、參集所及社務室等ノ主要建物ヲ順次完成シタルガ此ノ間御造營長クモ天聰二年昭和四年七月十五日特別ノ勅命ヲ以テ御手元金五百圓ヲ賜フセラル下賜セラレ同年十月二十三日李王陛下亦金二百圓ヲ賜フセラル

眞盛久由來被上ノ如クニシテ社ハ乃チ京城府民ノ總守トシテ一般官民ノ崇
 敬厚ク創立以來京城駐在ノ公使、領事ハ素ヨリ日韓合併後ハ公式祭ニハ總督
 總監以下眞知事、府尹等必ス參拜シ李王殿下始メ李公殿下、李副公殿下ヨ
 リハ侍ニ幣帛及御代拜ヲ差遣ハサレ又我方皇軍ニ於カセラレテハ明治四十年
 十月皇太子殿下並ニ有栖川宮殿下同四十二年七月梨本宮並同妃殿下大正三年
 朝香宮、東久邇宮兩殿下同十一年十月關院宮殿下昭和四年四月高松宮殿下等
 相次テ當社ニ成ラセラレ又ハ幣帛ヲ奉ラセ給フアリ次テ昭和六年八月ニハ同
 官司總ヨリ侍ニ皇大神宮御物寄進ノ御沙汰書ヲ拜スル等由緒ニ於テ一般崇敬
 ノ度ニ於テ遙ニ境内ニ於ケル爾餘ノ神社ノ上位ニアリ昭和十一年八月一日國
 幣小社ニ列セラレタリ

例祭

十月十八日

一 社殿並附屬建物

本殿	六坪五	拜殿	二十三坪三
幣殿	六坪	御饌所	四坪
手水舎	二坪	參集所	二十四坪
社務所	百三十五坪		

一 境内

壹萬八百參拾坪

一 崇敬者戸數五十二萬二千三百六十二戸

内地人、三萬四千十二戸
 朝鮮人、四十八萬八千三百五十戸

一境内社

天荷宮

八幡宮

奈神

菅原道真公

奈神

譽田別命

比賣神

稻荷社

大帯姫命

奈神

倉稻魂神

猿田彦神

乃木社

大宮女神

奈神

乃木希典命

乃木静子命

神社明細帳

慶尚南道釜山府辨天町鎮座

龍頭山神社

祭神 天照大神
 國魂大神
 大物主命
 表筒男命
 中筒男命
 衣筒男命
 舊記詳十ヲナルモ社ヲ創建ハ遠ク慶長年間
 對齋ハ領主宗義智公ハ日韓修交ニ當リ獲銀

釜山鎮ニ設置シ後延寶六年我々居留地ヲ
 草梁項(今釜山港)ニ移セシ當時乃今ヲ距
 ル約二百五十年前延寶六年三月義直公ハ時
 龍頭山景勝地ニ萬坪ヲ卜リ金力地羅神
 建天物主神ヲ奉齋セリ始ル後明治二年七
 月往吉大神社ニ奉齋セリ合祀シ表筒男
 命中筒男命衣筒男命天照大神原道真公ヲ奉齋シ次
 子慶應元年二月天照大神ヲ合祀シ次
 月十五日八幡大神ヲ合祀シ次
 十月居留民一同相謀リ龍頭山神社境内ニ
 二間四方ノ弘國大神遷拜所ヲ建設シ宗義智
 公ノ偉蹟ヲ敬仰シ毎年十月三日遷拜式ヲ執
 行シ未ルニ夕ルヲ明治二十九年四月一日神靈

奉シテ之ヲ合祀シ次ニ明治三十二年四月
 二十三日素盞鳴尊神功皇名豊臣秀吉公ヲ居
 留民ノ議ハ休リ各合祀シ以テ今日ニ至ル
 シテハ社ハ當初ノ金刀比羅神社ト稱シ住吉社
 於テハ主トシテ對馬ノ領主崇康ニ維持シ
 其ノ維持經營並ニ祭祀ノ事ヲ司リ明治十三
 年九月坊留民ノ附三ノ餘圓ヲ以テ社殿ヲ
 改築シ同三十二年五月附金一ノ餘圓居留
 地費補助金二十圓計金壹萬餘圓ヲ以テ社殿
 改築シ一方神社ノ維持ニ付テハ明治四十年
 度以テ降大正二年度迄居留民團ヲ以テ毎年
 半圓内外ノ供進アリ後釜山府廳ヨリ毎年金壹
 七百圓ノ供進ヲ受テ維持シ來ルカニ至リ金
 七百圓ノ膨脹ニ伴ヒ社入金モ激増シ毎歲壹萬
 五ノ圓ヲ下ラズ維持確立スルニ至リ而
 シテ昭和三年三月法鎮座二百五十年祭ニ當
 リ金三萬五千餘圓ヲ投シ不境內整理建物
 増改修ヲ行ヒ社頭ノ高目ヲ一新シタリ
 鎮祭ノ由來以上ノ如クニ不朝鮮ニ於テ
 神社トシテ八其ノ創立最モ古ク明治四十二
 年九月全國神職會ハ釜山龍頭山神社ハ現令
 韓國ニ於テ最モ古ク神社中
 最古ノ神社ニシテ社殿及境內等亦他ニ比類
 ナクテ以テ相當ノ社格ヲ是メラルハ至
 當トス

ト決議シ以テ結果時ニ統並伊藤博文ニ官幣
 文社ニ御身格ノ事ヲ稟申引續キ大正元年再
 已テ清君格ノ事ヲ朝鮮総督府内正毅伯ニ懇請
 又ハ此所アリシガ大正六年七月十日朝鮮
 ヲル神社規則ヲ公布シ伴ヒ神社トシテ公認
 セラレテ次テ昭和十一年八月一日國幣小社ニ
 例格仰出シタリ

十月十六日
 社殿並ニ附屬建物
 本殿 十二坪二
 拜殿 十九坪四
 神樂殿 三十一坪五
 手水舎 二坪
 社務所 六十八坪八

神庫 六坪
 崇敬者戸数

四十四萬千六百六十八戸内
 内地人 二萬千九百九十八戸
 朝鮮人 四十一萬九千六百七十戸

境内社
 稻荷社

祭神 倉稻魂神
 猿田彦神
 大宮女神

宮島社
 祭神 市村島根神

龍尾山社
 祭神 武内宿禰公
 加藤清正公
 朝日奈三郎義秀公

神功天皇右
應神天皇
豐原道真公
菅原道真公
宗義智公

地方課



神社明細帳

慶尚北道大邱府達城所鎮座

大邱神社

祭神

天照大神

國魂大神

由緒

南鮮ノ邑都大邱ハ新羅ノ故地ニシテ古以來我國ト
ノ交渉頻繁ヲ極メ素尊天子並ニ神功皇右ノ御事蹟
ニ至リテハ一層縁由浅カラザルモノアリ明治申葉以右印
ノ此地ニ移住スルヤ其ノ傳統的敬神崇祖ノ觀念ハ
異邦ニ在リテ一層熾烈切實ナルモノアリ遂ニ此ノ大
神縁ノ地ニ神祇ヲ奉齋シテ日月ヲ親シク敬神ノ誠ヲ

捧リ報本及他ノ禮典ヲ敷サントスルノ誠熟スルニ至リ
カクテ協議ノ結果往昔ヨリ土俗間ニ特殊ノ信仰アリ
キ点ニ墳墓ノ構築ヲハ許サザルニシテラズ神祇の靈
場トシテ久シク民間ニ畏敬セラレテリ大邱府内達城山
ニテ神祇奉齋ノ最適ノ地ト認メ同山中最高地ニ神殿
ヲ建設スルハク居留民ノ總意ヲ以テ統監府ノ斡旋ヲ仰ギ
韓國政府ノ諒解ヲ得テ皇祖遷拜殿建設地ト大書セル
高標ヲハ山上ニ打建テ神社創立ノ意ヲ表明セリ時ハ明治
三十八年十月三十一日次ニ翌三十九年六月神殿造営費ヲハ
一般ヨリ募集シ同年八月着工十月三日竣工セリカクテ大正
二年ニ至リ大邱神社ト稱シ奉リ大正四年神殿ヲ改築
スルト同時ニ參殿ヲモ新築シ漸次神社トシテ体裁ヲ具
備スルニ至リシガ朝鮮ニ於ケル斯道ノ興隆ニ伴ヒ同年朝鮮

總督府令ハテ神社創立ノ議ヲハ出願シ翌五年四月ニテ有附ヲ以テ大邱神社創立ノ件許可セラレタリカクテ同十年十月二日許可ヲ得テ入金參萬圓ノ寄附金ヲ募集シ神殿拜殿ノ改築並ニ社務所ノ移轉改築ヲ断行シ同十二年七月竣工スルニ及ビ全ク従来ノ面目ヲ一新スルニ至レリ次テ昭和六年神宮司廳皇大神宮撤下御神寶及同別宮伊佐奈禰宮撤下御裝束ノ寄進アリ昭和十年八月朝鮮ニ於ケル神社制度ノ確立ニ伴ヒ一道崇敬ノ神社トシテ道ヨリ神饌幣帛料ヲ供進スルキ神社ニ指定セラレ次テ同年十二月七日附ヲ以テ地元民熱望ニ依リ國魂大神並ニ素戔嗚大神増祀ノ件許可セラレ昭和十二年五月十五日國幣小社ト列セラレタリ

例祭

十月十六日

社殿並附屬建物

神殿

拜殿

手水舎

社務所

祭所

神饌調所

境内

六千五百八十六坪

崇敬者戸数

四十六萬千八百八十八戸内

内地人

朝鮮人

一〇坪

三三坪八合三勺三

二坪

一〇三坪八合

五坪五勺四

二坪五合五勺五

六千五百八十六坪

崇

四十六萬千八百八十八戸内

一萬八百九十二戸

四十五萬二千九百九十六戸

幣殿

神庫

神符披與料

集會所

祝詞會

儀式殿

三坪

三坪

五坪五合五勺

三坪

一〇坪

四〇坪四合四勺三

地方課

神社明細帳

平安南道平壤府慶上町鎮座

平壤神社

祭神

天照大神 一座

由緒

大正元年居留民團存立當時居留民團體より成ル平壤神宮奉教會ノ設立ニ係ルモノニシテ大正元年十二月十七日伊勢神宮より御靈代ヲ拜戴シ大正二年一月一日鎮座祭ヲ執行大正四年朝鮮總督府令ヲ以テ神社寺院規則ノ發布セラルニ及ビ同規則ニ基キ更メテ神社創立ノ件出願大正五年五月四日平壤神社創立ノ許可セラレタルモノニシテ御鎮座以來例祭

新嘗例祭ノ三大祭ニハ平壤府ヨリ幣帛ヲ供進シ官國幣社以下神社ノ制ニ準ジ府尹供進便トシテ参向ノ例ニシテ府民崇敬ノ中心トナリ神徳ヲ景仰令日ニ至リシカ創立以來年所ヲ經テ社殿荒廢ニ歸セルノミナラズ著シク狹隘ヲ告グルニ至リタルヲ以テ昭和八年十二月 皇太子殿下御降誕記念トシテ改築ノ議ヲ決シ道内官民一致協力淨財ヲ獻ジ昭和十年四月エラ起シ同年九月社殿落成十月二日遷座祭執行社頭ノ面目ヲ一新スルニ至リ次テ昭和十一年八月朝祭ニ於ケル神社制度ノ確立ニ伴ヒ一道崇敬ノ神社トシテ道ヨリ神饗幣帛料ヲ供進スルキ神社ニ指定セラレ次テ昭和十二年五月十五日國幣小社ニ列セラレタリ

例祭

十月二日

社殿並に附屬建物

神 殿 六坪

幣殿及中殿 三坪七勺
祝詞舎及神門 六坪五合八勺

神饌所神樂舎 二六坪一合六勺

境 内 坪数
壹萬貳千四百七拾四坪

崇敬者戸数

三十一萬六千二百七十五戸内

内地人 一萬千七百九十四戸

朝鮮人 三萬四千四百八十八戸

保食社 一

祭神 保食大神

明治四十四年十二月平壤城南會社建設ニ係ルモノニテ櫻社

ト稱シ平壤神社創立後即大正三年四月平壤神社ニ合併

其所管屬更ニ昭和十五年十一月十四日附境内保食社ト

ニ移轉件許可ナル

社殿

神 殿 三合

玉垣

四間

地方課

神社明細帳

全羅南道光州府龜岡町鎮座

光州神社

祭神

天照大神

天照大神 一座

由緒

光州ハ古来ヨリ南朝鮮ニ於ケル主要ナル地ニシテ總督始政以來
全羅南道廳ヲ始メ諸官公署、銀行、學校、軍隊、銀行、會社等
相續イテ設置セラレ政治産業、經濟、交通、要衝ナリ
聖ニテ居住民ノ數亦逐次増加シ大正元年ニ於ケル内地人口數
ハ七百六十八口ニ達スルニ至リ夙ニ官民間ニ於テハ光州
ニ神社ヲ創立シ奉リ以テ議起ルニトスルニ官民總意ニ下

一 神社ノ創立ヲナシ奉ルコトナレリ 即チ今年市街地ノ西南
光州川ヲ隔テタル龜岡公園ノ丘陵一帶九十七百餘坪ノ地ヲ
トシ大正元年八月伊勢神宮遷拜殿ヲ建立シタリ
然レドモ固ヨリ御神靈ヲ鎮座シ給フ神社ニシテ以テ大正
五年八月神社ヲ創立シ申請越エテ翌年五月之カ許可ヲ得
今年十一月三日吉日ヲ選ビ伊勢神宮ヲ 天照大神ノ御
靈代ヲ拜戴シ盛大ナル鎮座祭ヲ執リ行ヒ茲ニ奉リ御神靈
ヲ鎮座シ奉ルニ至リ光州ノ鎮護ヲ奉リ御神威愈々
宣揚セラレルニ至リ昭和七年八月朝鮮ニ於テ劃期の制
度トシテ神社制度確立ヲ見同時ニ光州神社ハ道ニ神饌幣
帛料ヲ供進シ奉ルコトニ指定セラレ茲ニ獨リ光州府鎮護ノ
神社タルノミナズ全羅南道ノ總鎮護トシテ二百五十萬道民ノ
崇敬ノ中心トナリ神威赫々トシテ遍ク全道ヲ光被スニ至リ

然此徒奉神城狹隘三社殿其地諸設備亦整ハサレ
 痛感ヒラルルニ至リ昭和十一年十月廿九日神社奉賛會
 組織ニ総工費三萬圓ヲ以テ社殿ノ造替ト神域ノ擴張整
 備ヲ行フコトナリ昭和十一年十一月之カ許可ヲ得テ直ニ
 工事ニ着手シタリ爾來支那事變ヨリ資材統制シタリ
 少シ困難ト遲延ヲ来シタルカ神明ノ加護ニヨリ脇神門五垣等
 小部分ノ修繕ニミテ諸工事後竣シタルヲ以テ今十五年
 十一月十九日本殿遷座祭ヲ執行シタリ其後崇敬者一團
 ノ總意熱望ニ依リ國魂太神増祀ヲ今十五年十月廿六日申請
 ノ處今年四月八日附許可セラルルニ同年十月一日國幣示
 社ニ列セラレタリ

例祭

十月十五日

神殿其他ノ工作物	九坪七合五分	一棟
神殿 流造	三坪	一棟
幣殿	三三坪上合六分七	一棟
拜殿	一〇間一五尺(神殿五垣)	一棟
五垣	三坪	三間
神饌所	三坪	一棟
祭器庫	二坪	一棟
渡廊	六坪五合	二棟
神門及 兩翼舎	神門八坪 兩翼舎七合五分	二棟
脇神門	柱間(桁行)九尺	二棟
神庫	一坪三合三勺	一棟
水榭	一坪三合三勺三	一棟
水榭	柱真六尺五寸	一棟

表鳥居 石造 神明鳥居
 脇鳥居 石造 神明鳥居
 社務所 瓦葺
 社務標 石造
 社札 宛不出所付
 石階段 長廿三四尺寸二分
 燈籠籠 石灯籠
 倉庫 瓦葺
 境内坪数 一萬八千七百五十八坪三合
 崇敬者户数 五十五萬九千三百九十九戸
 内地人 一萬五百四十九戸
 朝鮮人 四十九萬九千六百四十四戸

柱真々二十六尺
 柱真々十二尺
 一、二坪二合六分六厘
 柱真々六尺
 由上段二尺七寸
 下段五尺五寸
 一基
 一基
 十三基

地方課

神社明細帳

江原道春川郡春川邑鎮座

江原神社

祭神

天照大神

明治天皇

國魂大神

素戔鳴尊

由緒

大正二年以降春川在住敬神家依り春川邑鳳儀山麓
三小祠ヲ建テ大神宮ト稱シ年々春季ニ於テ祭典ヲ行フヲ
例トセシガ大正四年八月十六日神社寺院規則發布ノ結果従来
ノ舊ニテハ發祠ノ外途ニキリテ茲ニ有志相議リ同規則ニ

依リ出願シ大正七年三月十一日附テ以テ創立許可セシレ神社
ノ稱號ヲ春川神社ト改メ本林嚴シ保テ一般住民ノ敬神思
想涵養ニ上遺徳ヲクランコトヲ期シ大正七年八月十七日地鎮祭
執行ノ直ニ起工シ大正八年六月三日竣工同年七月七日祀
所祭ヲ執行セリ神域ハ高燥絶塵ノ地ニシテ眺望富
シ春川市街ヲ俯瞰シ此地ニ接續セル山地ハ闊葉樹多キモ
老松參差點綴シ高ク々天ヲ摩リテ諸者ヲ宇神威ノ尊嚴ヲ
感シ自ラ襟ヲ正シムルモナリ
昭和七年一月十五日神宮撤下御神寶(革御鞆梓御弓銅黒
造御大刀御楯御鏡)ヲ寄進セラレ同年十月六日拜受ス
昭和十一年八月十日神社規則ヲ發布シ依リ道供進ノ指定ヲ受
ケ實質的ニ道社タルノ格ヲ得昭和十三年八月三日御祭神ニ
國魂大神 素戔鳴尊ニ柱增加ノ許可ヲ受ケ昭和十三年六月

十六日御社跡ヲ江原神社ト改メ同年十月十五日二柱、大神ノ鎮祭
ヲ執行次下社殿其他ノ工作物ヲ整備昭和十六年十月一日國幣
小社ニ列セラル

十月十五日 例祭

神殿其他ノ工作物 木造本耳草單層流造 一〇坪三合二勺

祝詞舎 附神徳備室 全 切妻造 八坪六合二勺

神饌所 全 切妻造 三四二〇坪

神樂殿 全 切妻造 八五三坪

神樂殿社務所 全 切妻造 二二二〇坪

神門 全 防火壁切妻造 六九〇坪

西翼舎 全 入母屋造 四四三三坪

透塀 全 防火壁切妻造 六六八坪

神庫 全 延長 三六〇坪

水舎 全 延長 一三三坪

社務所 全 延長 一九四坪

倉庫 全 延長 二二〇一四坪

烏居 全 延長 六〇〇坪

石燈籠 全 延長 二四八〇坪

制祀 全 延長 一三三〇〇坪

燈籠 木造 拾貳基
 境内坪数 二萬六千五百七十坪
 崇敬者戸数 三十一萬七千九十六戸内
 内地人 五千九百八戸
 朝鮮人 三十一萬千八百八戸

地方課

税ノ系統		税ノ系統	
戸別税	計	林野税	計
課制 率限	賦課指 二付六個	平均歩 二一 三〇銭	課制 率限
收入豫算額	六三三〇〇六	二七三〇六	收入豫算額
税目	附戸 加別 税	一	税目
制限課率	賦課指 二付十個	一	制限課率
收入豫算額	六三三〇六	一	收入豫算額

税ノ系統		税ノ系統	
地統税	特別地稅	附地 加稅	地統税
課制 率限	分格實 ノノ三 百價	本稅ノ 四分ノ 八	課制 率限
收入豫算額	二一六三六	一三二六三	收入豫算額
税目	特別地稅 附加稅	附地 加稅	税目
制限課率	特別地稅額	本稅ノ 五分ノ 二	制限課率
收入豫算額	二一六	九五五〇六	收入豫算額

地方租税ノ體系、税目別課率並ニ收入豫算額表
 地方租税ノ體系、税目別課率並ニ收入豫算額ハ左表ノ通ナリ
 (表ノ一)

系 雜 種 統 稅		系 家 屋 統 稅		系 營 業 統 稅	
取 不 得 動 產 稅	車 輛 稅	層 首 稅	家 屋 稅	附 加 稅	計 稅
一 百 分 之 一	省 略	省 略	二 五 錢	一 百 分 之 五	一 百 分 之 五
1748600	1401374	716695	2126110	112609	112609
不 動 產 附 加 稅	附 車 輛 稅	附 家 屋 稅	附 家 屋 稅	附 加 稅	附 加 稅
本 稅 之 五 分	自 動 車 及 自 動 車 稅 其 他 本 稅 之 一 分	本 稅 之 一 分	本 稅 之 一 分	分 之 一	分 之 一
4011374	3471111	1626111	1626111	112609	112609

系 戶 別 統 稅	計	林 野 稅
國 二 試 賦 課 指 一 付 六 個		三 付 町 平 均 一 〇 錢
六 三 六 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	1112000
附 戶 加 別 稅		
個 二 付 十 個		
六 〇 〇 〇 〇 〇 〇	六 〇 〇 〇 〇 〇 〇	

合計	系種稅			稅ノ系統
	計	雜種稅	稅得不動產附加	
省略	省略	五百分ノ	一百五分ノ	其本ノ他類
1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000

系屋稅	系續稅	系營業稅	計	省略
自及自轉自動車	ノノ面ノ邑ノノ續ノノ續	ノノ續ノノ續	ノノ續ノノ續	ノノ續ノノ續
1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000